1-5 海外研修訪問先

1）JICA インドネシア事務所訪問（オリエンテーション・安全対策ブリーフィング）

目的：①インドネシアの基礎的な情報、教育事情及び JICA の援助方針についてのオリエンテーションの実施
②安全対策ブリーフィングの実施

所感：①インドネシアにおけるJICAの事業概要について説明を受け、JICAが実施する援助もハード中心のものからソフト（技術移転や能力向上）中心のものに変わってきており、相手国のニーズに基づいて、援助を実施していることが理解できた。
②日本とは異なる環境であることから、緊張感を持って研修に臨まなければならないと感じた。

2）インドネシア大学日本研究センター（JICA 技術協力プロジェクト現場視察）

目的：①日本が実施する政府開発援助（ODA）がどのように実施されていて、現地の人にどのように思われているのかを知る。
②日本語を学ぶ学生と意見交換を行い、インドネシアから見た日本について考える。

所感：①プロジェクトの実施においてインドネシアの文化や人の価値観などが密接に絡んでいることを感じた。
②客観的に日本を見る機会になり、自分自身の考え・生き方や日本の教育の現状について改めて見直すことができた。

3）生物学研究センター（JICA 技術協力プロジェクト現場視察）

目的：①日本が実施する政府開発援助（ODA）がどのように実施されていて、現地の人にどのように思われているのかを知る。
②インドネシアの生物多様性を理解し、今日、学校現場で重要性を増している環境教育の一助とする。

所感：①このような分野において、日本が援助を実施し、さらには、日本の大学と共同研究をしていることに驚いた。

②熱帯雨林の保護と持続可能な開発は、地球温暖化防止の観点からも非常に重要である。今後、企業が、利益を生み出すために熱帯雨林を利用するようになった時、熱帯雨林や生息する動植物の行方はどのようになるのか考えさせられた。

4）ストリートチルドレン更生施設（現地NGO（Setia Kawan Paharja Foundation）プロジェクト視察）

目的：①現地NGOとJICAが共同して実施する草の根技術協力プロジェクトの活動現場を視察し、政府が実施するプロジェクトとの違いを理解する。

②現地の人々と交流を図りながら、ストリートチルドレンが更正するための活動実態を理解する。

所感：①草の根レベルで実施されるプロジェクトは、最終裨益者が目の前にいるので、理解しやすい。

②ストリートチルドレンを生み出してしまう社会的状況、家族のあり方、貧困層の生活や人生観などが、講話の中から理解できた。毎日の生活を不満に感じることなく、自分自身を高め、前向きに生きていこうとしている力強い姿が見られた。

5）ＪＩＣＡボランティア（青年海外協力隊員・シニア海外ボランティア）との意見交換会

目的：①JICAボランティアとして国際協力に従事する人々と意見交換を行い、JICAボランティアが活動や生活を通じて感じたインドネシアという国（社会や文化）や人々の様子について聞き、日本との相違点を理解する一助とする。

所感：①JICA ボランティアは、国際協力の難しさも感じつつも、自分なりの協力スタイルを模索して焦らず着実に取り組んでいる姿に感銘を受けた。そして、国際協力を行うということは、相手からの見返りを求めて活動するものではない。それは、教育者である自分にとっても大切な心構えであり、自分自身を見直すいい機会になった。

6)インドネシア語教室及びインドネシア文化体験教室（ガムラン音楽またはバティック製作体験）

目的：①ホームステイに備え、簡単なインドネシア語を学ぶ。

②文化体験教室（ガムラン音楽またはバティック製作体験）に参加し、インドネシア伝統文化への理解を深める。

所感：①インドネシア語を教わることで、教えられる者の立場に立つことができ、自分の教え方を見直すことができた。

②伝統文化や伝統工芸は、その場所の風土から生み出されるものだと実感した。

7）ホームステイ（生活状況実態調査）

目的：①インドネシアの家庭でのホームステイを通して、インドネシアの文化や習慣などを理解するとともに、現地の人との交流をはかる。

所感：①「インドネシアは安全ではないからインドネシアを好きになれない人がたくさんいる。インドネシアを平和な国にして、世界中の人にインドネシアに来てほしい。」というホストファミリーの言葉に心を打たれた。

8）ジョグジャカルタ市内の市場見学及び書店視察（生活状況実態調査）

目的：①帰国後の授業実践で活用する物品や教材収集のため、市場や書店を視察する。

所感：①市場の人の多さに驚いた。店も人もひしめき合っていて、周囲の状況を観察するのにも一苦労だった。人々の元気よさが印象的だった。市場では、色々な物が売られており、値段も日本に比べて安かった。書店では、日本の漫画本（インドネシア語版）が山積みになっており、日本の漫画文化の進出ぶりに目を見張った。

9）日本文化紹介・ホームビジット・サイエンスカフェ（京都大学東南アジア研究所のプロジェクト現場視察）

目的：①ジャワ島中部地震で被災した子供たちのトラウマケアや防災拠点作りを行っている京都大学が実施するプロジェクト現場を視察し、現地の人々と交流を図る。日本の大学と現地の人々が協力し合いながら一つの目標を達成しようと実施する草の根の活動実態を理解する。

所感：①子供たちは、笑顔とパワーに満ち溢れており、一生懸命勉強している様子が見られた。我々の拙いインドネシア語にも耳を傾けてくれ、一生懸命返答してくれる様子に感動した。

10）ワテス国立第１中学校、スポーツ青年局（青年海外協力隊活動現場視察）

目的：①青年海外協力隊の活動現場を視察し、授業参観や現地教員との意見交換を行い、インドネシアの教育システムを理解する。また、現地の人たちの日本に対するイメージや興味を知り、相互理解を図る。

所感：①インドネシアの教師が解決しなければならない問題は、日本の教師が解決しなければならないものと同質のものであった。私はこれまでスポーツを通じての国際協力にどのような意味があるのだろうかと、少々批判的に見ていたが、子供たちに生きる目標を与え、人と人とのつながりを拡げる素晴らしい活動であるとことがわかった。

11）ボロブドゥール遺跡（有償資金協力プロジェクト視察）
プランバナン遺跡（草の根文化無償資金協力及び有償資金協力プロジェクト視察）

目的：①ODA（有償資金協力及び無償資金協力プロジェクト）現場であるボロブドゥール遺跡及びプランバナン遺跡の見学を通して、資金協力の実態及びインドネシアの文化について考える一助とする。

所感：①世界遺産である２つの宗教建築物（仏教とヒンドゥー教）を見て、それぞれの違いを感じることができた。３つの宗教を中心に対立せず共存しているところにインドネシアの素晴らしさを感じた。

12）JICA インドネシア事務所訪問（海外研修帰国報告会）

目的：①9日間の海外研修を振り返り、期間中の学びを JICA 事務所員と共有し、今後の授業実践についての抱負を語る。

所感：①日本と異なった環境で一度に多くのことを見聞して混乱していたが、 9日間の研修を通して得た気付きや学びを振り返り、整理することができた。今回の研修の成果を学校現場で活かしてほしいとの言葉を JICA 所員からかけてもらい、帰国後の実践に向けてさらなる意欲が湧いた。

13）現地学校・寮（現地 NGO（HIMMATA）のプロジェクト現場視察）

目的：①参加教員から強く要望のあった、スラム街で活動している現地NGO の活動現場を訪問し、人々との交流をはかる。

所感：①スラムの様子や学校を訪問し、「学びたい」という気持ちはどこの国も共通しているものだと思った。どんな状況であれ、教育は必要なものだと思う。

1-6 参加者リスト（敬称略、小学校・中学校・高等学校の種別内で五十音順）

	氏名	勤務先　（学校名）	担当教科
1	清　献一郎	西宮市立神原小学校	
2	野添　洋子	川西市立陽明小学校	音楽専科
3	三好　裕子	神戸市立東灘小学校	
4	貞松　千佳子	兵庫県立芦屋国際中等教育学校	英語
5	竹岡　聡子	尼崎市立成良中学校	保健体育
6	田尻　伸子	芦屋市立山手中学校	英語
7	山中　信幸	柳学園中学・高等学校	中学　社会（公民） 高校　地歴（日本史）

同行者

	氏名	所属先　・　役職名
1	藤善　奈美	JICA 兵庫 国際協力推進員（兵庫県[神戸市を除く]担当）
2	吉井　さやか	社団法人青年海外協力協会(JOCA)近畿支部 職員

※「教師海外研修」（全体総括、データ整備、事前研修、海外プログラム準備、海外研修（同行ファシリテーター、研修管理調整）、成果品作成、帰国報告）を実施するにあたり、その運営を円滑かつ効率的に進めることを目的として、当該業務の実施を社団法人青年海外協力協会（JOCA）近畿支部に委託した。

1-7 主要面会者リスト

	氏名	所属先名	役職名など
1	坂本 隆	JICA インドネシア事務所	所長
2	水野 隆		次長
3	舘山 丈太郎		所員
4	福田 千秋		所員
5	Erina Nakamura Saragih		所員
6	小座野 八光	インドネシア大学日本研究センター	JICA 専門家
7	バクティアル・アラム		所長
8	Lea Santiar		副所長
9	鍛冶 哲郎	生物学研究センター	JICA 専門家
10	小林 浩		JICA 専門家
11	Achmad Dinoto		プロジェクトマネージャー
12	鈴木 亮	ワテス国立第 1 中学校	青年海外協力隊員(理数科教師)
13	吉嶋 哲也	ジョグジャカルタ青年スポーツ省	青年海外協力隊員(バレーボール)
14	幸池 勇平	ジョグジャカルタ国立大学	青年海外協力隊員(料理)
15	滝沢 直美	ジョグジャカルタ第 4 国立実業高校	青年海外協力隊員(料理)
16	金子 裕介	スレマン第 3 中学校	青年海外協力隊員(理数科教師)
17	吉原 峰代	ジョグジャカルタ国立大学	シニア海外ボランティア（手工芸）
18	濱元 聡子	京都大学東南アジア研究所 （ジョグジャカルタ特別州バントゥル県ゲシアン村）	研究員
19	Dindin	Setia Kawan Paharja Foundation	代表
20	Swanny	ジョグジャカルタ語学学校 ALAM BAHASA	

2. 研修報告

2-1

学校名　：西宮市立神原小学校
氏　名　：清 献一郎

1　海外研修について

（１）　良かったと感じた（期待に応えた）海外研修の内容について（上位３つ）

① ＨＩＭＭＡＴＡ(スラム街で活動している現地ＮＧＯプロジェクト現場)訪問
⇒最貧層の人々の輝く目に感銘をうけた。

② ゲシアン村でのホームビジット
⇒インドネシア人の素の生活を垣間見られた。人々の温かさに触れることができた。

③ ＪＩＣＡインドネシア事務所所員の方々との意見交換会
⇒現地に住む日本人の目から見た生のインドネシアが聞けた。インドネシアの習慣や生活の様子を知れた。

（２）　収集した資料／教材について

・サロン（腰に巻く布）、音楽(ＣＤ)、子供向けイスラム教の教本、バティック（ろうけつ染め）、ノート、菓子

（３）　授業／学校生活への活用について

上記のものを使って行う。

（４）　研修に関する全般的な所感／意見について

・教材集めのための時間が多めに設定されていたのが良かった。
・朝早くから遅くまでの研修行程に体調を崩した方も多く、全員が全行程に参加できなかったのが残念。どのプログラムも良いものであったゆえにもったいなく感じた。

2　来年度研修へ向けて　～さらに充実した研修のために～

（１）　事前研修

・もう少し事前に訪問先の詳細が分かっていると安心。

（２）　海外研修について

・スケジュールが過密で、体力的に厳しい。

（３）　今後の本研修参加者へのアドバイス

・楽しい研修は、メンバーの意気込み次第なので、何事にも積極的に挑戦してほしい。
・疲労は思ってもいないような体調不良を引き起こす。疲れを残さないような工夫をするべき。
・荷物の重量オーバーに注意する。色々持って行こうと思うと、超過手荷物料が必要になる。洋服は現地調達することもできる。

3　各訪問先の所感

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感
7月31日	ＪＩＣＡインドネシア事務所	インドネシア人の誇りや象徴を聞けた。 ⇒自尊感情
	インドネシア大学日本研究センター	インドネシアの大学生からインドネシアの進学状況や高等教育について聞けた。⇒貧富の差

日時	訪問先	発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感
8月1日	生物学研究センター	シーラカンスはすごい。 ⇒世界でも素晴らしい自然が残されていて、たくさんの種類の生物が生息していることは、世界に誇れる宝物。
	ストリートチルドレン更正施設	働くことと生活設計のできる生活に切り替えることを味わわせ自立することの喜び ⇒物を作って売れることで喜びを味わえるし、それを購入することでその人たちを支援することができる。そこから自分たちでもできることを学んで欲しい。
8月2日	インドネシア語教室	インドネシア語を学んで楽しかった。 ⇒新しい言語の習得は異文化コミュニケーションの第一歩
	ホームステイ	アンナさん宅はおじいちゃんが日本に行ったことがあり好意的だった。寮みたいな個室でトイレットペーパーが個別包装で置かれており、バラ売りが当たり前なようだった。 ⇒物の豊富な日本に住んでいるということを児童に味わわせたい。
8月3日	文化体験教室 「バティック （ろうけつ染め）」	バティック製作を体験した。ろうで模様を描くことの難しさを感じた。 ⇒国の伝統文化の継承は大切なことだと児童に伝えたい。
	市場見学・書店	色々なものがあって楽しかった。バティックが店の１階の全てを占めているのに驚いた。バティックが国民の衣装としてしっかりと定着していることが素晴らしかった。
8月4日	ゲシアン村小学校 日本文化紹介	素直で明るい子供たちだった。女の子が体育で民族舞踊を習っているのは、日本と同じだった。日本の文化も随分とテレビの影響で知っていた。日本の文化が浸透していることに驚きを感じた。 ⇒日本の文化に誇りを持って欲しい。
	ホームビジット	日本と比較すると６０年前に逆戻りのような生活ではあるが、そこで暮らす人々の笑顔に人間の生活のあり方を学ばされた。 ⇒物質的な豊かさとは真の豊かさと比例していないことを伝えたい。
8月5日	ワテス国立第１中学校	教師の質が問題だった。日本と同じようになればもっと向上するとは思うが、意識改革は困難である。国家プロジェクトで改革が行われていくと変化するのかもしれない。
	スポーツ青年局	家族と離れ、一生懸命頑張っている子供たちにひたむきさ、自分を信じ頑張るという情熱を感じた。 ⇒自分の信じる道を貫く強さを学んで欲しい。
8月6日	ボロブドゥール遺跡、プランバナン遺跡	世界遺産である二つの宗教建築物を見て、それぞれの違いを感じることができた。そして、２つの宗教が対立をせず共存しているところに素晴らしさを感じた。 ⇒文化財を大切にし、守り続けていくことを感じて欲しい。
8月7日	ＨＩＭＭＡＴＡの 学校・寮	想像を絶する環境で暮らす人々に驚きを感じた。しかし、子供たちの明るい笑顔に自分の幸せの定義を揺さぶられた。 ⇒人間の幸福とは何か、考えるきっかけとしてほしい。